

四半期報告書

(第87期第2四半期)

自 平成26年7月1日

至 平成26年9月30日

千代田化工建設株式会社

横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号

目 次

	頁
表 紙	1
第一部 企業情報	
第1 企業の概況	
1 主要な経営指標等の推移	2
2 事業の内容	2
第2 事業の状況	
1 事業等のリスク	3
2 経営上の重要な契約等	3
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	4
第3 提出会社の状況	
1 株式等の状況	
(1) 株式の総数等	8
(2) 新株予約権等の状況	8
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	8
(4) ライツプランの内容	8
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	8
(6) 大株主の状況	9
(7) 議決権の状況	10
2 役員の状況	10
第4 経理の状況	11
1 四半期連結財務諸表	
(1) 四半期連結貸借対照表	12
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	14
四半期連結損益計算書	14
四半期連結包括利益計算書	15
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	16
2 その他	19
第二部 提出会社の保証会社等の情報	20

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年11月14日
【四半期会計期間】	第87期第2四半期（自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日）
【会社名】	千代田化工建設株式会社
【英訳名】	Chiyoda Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 澁谷 省吾
【本店の所在の場所】	神奈川県横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号
【電話番号】	045(225)7740（ダイヤルイン）
【事務連絡者氏名】	総務ユニットGM 山田 幸雄
【最寄りの連絡場所】	神奈川県横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号
【電話番号】	045(225)7745（ダイヤルイン）
【事務連絡者氏名】	主計SL 関田 信雄
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第86期 第2四半期 連結累計期間	第87期 第2四半期 連結累計期間	第86期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
完成工事高 (百万円)	199,726	207,170	446,147
経常利益 (百万円)	12,435	10,175	22,837
四半期(当期)純利益 (百万円)	7,407	5,896	13,447
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	6,350	7,481	13,034
純資産額 (百万円)	191,431	200,773	198,031
総資産額 (百万円)	423,149	484,564	475,288
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	28.60	22.76	51.91
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	44.8	41.1	41.3
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△4,868	△26,826	△17,177
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△8,499	△3,281	△16,796
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△5,038	△4,277	△5,249
現金及び現金同等物 の四半期末(期末)残高 (百万円)	164,262	110,815	145,303

回次	第86期 第2四半期 連結会計期間	第87期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	18.49	21.63

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 完成工事高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

主要な関係会社の異動は次のとおりであります。

〈その他の事業〉

第1四半期連結会計期間より、新たに設立した千代田ビジネスソリューションズ㈱を連結の範囲に含めております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、新たに締結した経営上の重要な契約等はありません。
なお、中鼎工程股份有限公司（シーティーシーアイ・コーポレーション）との業務提携契約について契約の更新（平成26年7月29日）をしております。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社並びに子会社及び関連会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、回復基調を強める米国が世界経済を牽引するものの、アジア新興国の景気減速や欧州諸国の景気低迷、中東、ウクライナなどの地政学的リスクが高まるなど、引き続き不透明な状況にあります。その中でもエネルギー分野においては、中長期的なエネルギー需要増とシェール革命やガスシフトを背景とする設備投資計画が、一部見直しは出ているものの概ね順調に進みました。一方、国内経済は良好な雇用環境が下支えとなっているものの、期待された輸出が伸び悩み消費税増税からの回復ペースも弱く、総じて一進一退の動きとなっています。

このような状況下、当社グループは中期経営計画の諸施策に沿って、従来分野への取り組みを継続し、受注残高を積み上げるとともに、オフショア及びアップストリーム分野での事業拡大、当社独自技術による水素サプライチェーンの構築や太陽光・太陽熱発電の推進など、新エネルギーや再生可能エネルギーを含む新たな分野への進出に取り組んでいます。

工事の遂行については、海外ではオーストラリアのLNG(液化天然ガス)プラント、ベトナムでの国内顧客の進出案件やカタール、ベネズエラでの石油関連プラント、モンゴルでの新国際空港、国内ではLNG受入基地や太陽光発電設備工事などが順調に進みました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の連結受注工事高は 5,875億70百万円(前年同四半期比 511.3%増)、連結受注残高は 1兆4,521億90百万円(前連結会計年度末比 35.4%増)、連結完成工事高は 2,071億70百万円(前年同四半期比 3.7%増)となりました。また、営業利益は 98億20百万円(同 11.5%減)、経常利益は 101億75百万円(同 18.2%減)、四半期純利益は 58億96百万円(同 20.4%減)となりました。

当社の報告セグメントであるエンジニアリング事業の概況は、次のとおりです。

(LNG・その他ガス分野)

海外では、米国でのLNGプラントのFEED(基本設計)業務を受注しました。オーストラリア、米国、ロシアでのLNGプラントのEPC業務、またモザンビークのLNGプラント、インドネシアのFLNG(浮体式洋上天然ガス液化)設備及びカナダのLNGプラントのFEED業務を鋭意遂行中です。一方、カタールでは、当社が建設したLNG・ガス処理プラントの改造・改修案件のEPCm(設計・調達・建設管理)業務を現地グループ会社が継続して受注・遂行中です。国内では、複数のLNG受入基地建設工事やその他の既設プラントの増設・改造に伴う検討業務及び工事案件を引き続き遂行しております。

LNG・その他ガス分野は当社の重点分野であり、今後とも国内・海外、陸上・海上、在来ガス・非在来ガスの全てについて注力してまいります。

(石油・石油化学・ガス化学分野)

海外では、マレーシアでは製油所の残油流動接触分解装置のEPC業務を受注し、ベトナムでの製油所・石油化学コンプレックス、カタールでの製油所のEPC業務及びベネズエラでの重質油処理設備のEPsCm(設計・調達支援・建設管理)業務などを鋭意遂行中です。また、シンガポールのグループ会社が、アジア地域の石油・化学等ダウンストリーム案件に関わるプロジェクトマネジメント業務を長期契約にて遂行中です。国内では、製油所向け不均化装置のEPC業務のほか、省エネを目的とする既設装置の検討及び更新工事、大規模震災を想定した製油所のインフラ強化の検討業務等を遂行中です。

(一般化学・産業設備・資源・環境分野)

交通インフラ分野では、新モンゴル国際空港のEPC業務の遂行に加え、更なる空港案件や鉄道案件の受注に向けて入札対応中です。水リサイクル事業では、サウジアラビアの工業排水処理/再利用モデル事業のほか、中東現地グループ会社による中小規模水処理EPC遂行体制の整備に取り組むなど関連する案件の受注に向けて営業活動を進めております。

その他ノンハイドロカーボン関連分野でも、国内顧客の海外進出案件に対し、鋭意営業活動を展開しております。

国内では、各地で太陽光発電設備(メガソーラー)のEPC業務を受注・遂行中で、引き続き案件獲得に向けグループ遂行体制を強化し営業活動を展開しております。医薬品関連分野においては、原薬製造工場、産官学連携のナノテクノロジー研究開発施設、バイオ医薬品製造設備などのEPC業務を遂行しております。

(新分野)

オフショア及びアップストリーム分野に関しては、わが国の資源開発会社等に対し、資本提携した英国のエクソダス・グループと海洋開発分野へのサービス提供を行っており、インドネシアではFPU(洋上ガス処理設備)のEPCI(設計・調達・建設・据付)業務を遂行中です。

太陽熱発電関連では、「熔融塩パラボリックトラフ型太陽熱発電」のデモプラントをイタリアで実証運転しております。

また、水素社会実現に向け自社開発した水素の大量貯蔵・輸送技術を活用する水素サプライチェーンの事業化に向けて、国内外の関係者との検討・協議を継続しております。

受注高、完成工事高、受注残高の実績は、次のとおりです。

(単位：百万円)

セグメントの名称	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)			当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)		
	受注高 (構成比)	完成工事高 (構成比)	受注残高 (構成比)	受注高 (構成比)	完成工事高 (構成比)	受注残高 (構成比)
1 エンジニアリング 事業	93,912 (97.7%)	197,614 (98.9%)	806,505 (99.9%)	585,114 (99.6%)	204,886 (98.9%)	1,451,710 (100.0%)
(1) LNGプラント 関係	12,693 (13.2%)	84,240 (42.2%)	443,300 (54.9%)	497,608 (84.7%)	106,821 (51.6%)	1,138,941 (78.4%)
(2) その他ガス関係	4,284 (4.4%)	21,937 (11.0%)	37,107 (4.6%)	29,611 (5.0%)	16,603 (8.0%)	32,975 (2.3%)
(3) 石油・石油化学 ガス化学関係	22,652 (23.6%)	32,836 (16.4%)	210,686 (26.1%)	31,448 (5.4%)	48,043 (23.2%)	195,085 (13.4%)
(4) 資源関係	201 (0.2%)	4,156 (2.1%)	67 (0.0%)	1,304 (0.2%)	102 (0.0%)	1,315 (0.1%)
(5) 一般化学・ 産業設備関係	13,325 (13.9%)	48,832 (24.4%)	58,632 (7.3%)	15,369 (2.6%)	21,232 (10.2%)	37,061 (2.6%)
(6) 環境・ 新エネルギー・ インフラ関係	33,091 (34.4%)	4,830 (2.4%)	49,127 (6.1%)	7,529 (1.3%)	9,857 (4.8%)	42,797 (3.0%)
(7) その他	7,664 (8.0%)	781 (0.4%)	7,583 (0.9%)	2,242 (0.4%)	2,227 (1.1%)	3,534 (0.2%)
2 その他の事業	2,204 (2.3%)	2,111 (1.1%)	480 (0.1%)	2,455 (0.4%)	2,283 (1.1%)	480 (0.0%)
合 計	96,117 (100.0%)	199,726 (100.0%)	806,985 (100.0%)	587,570 (100.0%)	207,170 (100.0%)	1,452,190 (100.0%)
国 内	52,031 (54.1%)	61,416 (30.8%)	118,234 (14.7%)	50,110 (8.5%)	56,615 (27.3%)	96,381 (6.6%)
海 外	44,086 (45.9%)	138,309 (69.2%)	688,750 (85.3%)	537,459 (91.5%)	150,555 (72.7%)	1,355,808 (93.4%)

- (注) 1 受注残高を算出するに当たっては、前連結会計年度以前に受注した工事の契約変更等による減額分並びに受注高の調整による増額分及び外貨建契約に関する為替換算修正に伴う増減額の合計を加味しております。
- 2 本表の金額には消費税等は含まれておりません。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ344億88百万円減少し、当第2四半期連結会計期間末には1,108億15百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金収支は、268億26百万円の減少（前年同四半期は48億68百万円の減少）となりました。これは、税金等調整前四半期純利益101億75百万円を計上したものの、法人税等の支払が57億88百万円となったことに加え、ジョイントベンチャー持分資産が443億14百万円増加したことなどによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金収支は、32億81百万円の減少（前年同四半期は84億99百万円の減少）となりました。これは、固定資産の取得による支出26億54百万円などによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金収支は、42億77百万円の減少（前年同四半期は50億38百万円の減少）となりました。これは、配当金の支払い41億36百万円などによるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、11億75百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 株式会社の支配に関する基本方針について

当社は、基本的には、企業価値を高めるとともにIR（投資家向け広報）に努めて、株主の方々に評価してもらうことが重要と考えております。

したがって、新株予約権の発行などによる買収防衛策をとることは予定しておりませんが、当社に対して買収提案があった場合には、企業価値の向上・株主共同の利益を判断基準として、当社としての意見表明などの適切な措置をとってまいります。

また、当社は、自社による努力はもとより、他社との提携も含めた一層の事業深耕・拡大を追求することにより、企業価値向上を図ることを基本方針としております。このような考え方にに基づき、平成20年（2008年）3月31日に三菱商事株式会社と資本業務提携を行って協力関係を強化し、更なる企業価値向上をめざすこととしました。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	570,000,000
計	570,000,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	260,324,529	260,324,529	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 1,000株
計	260,324,529	260,324,529	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年7月1日～ 平成26年9月30日	—	260,324	—	43,396	—	37,112

(6) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
三菱商事株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目3番1号	86,931	33.39
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	12,189	4.68
日本トラスティ・サービス信託銀行株式 会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	9,801	3.76
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	9,033	3.47
三菱UFJ信託銀行株式会社 (常任代理人 日本マスタートラスト信 託銀行株式会社)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	6,424	2.46
バンク オブ ニューヨーク ジーシー エム クライアント アカ운ツ エム エーピーエヌビー (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ 銀行)	フランス共和国パリ市 (東京都千代田区丸の内2丁目7-1 決済事業部)	3,500	1.34
資産管理サービス信託銀行株式会社(証 券投資信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12 晴海トリトンスクエアタワーZ	2,345	0.90
明治安田生命保険相互会社 (常任代理人 資産管理サービス信託銀 行株式会社)	東京都中央区晴海1丁目8-12 晴海アイランドトリトンスクエアオフィ ス タワーZ棟	2,265	0.87
日本トラスティ・サービス信託銀行株式 会社(信託口6)	東京都中央区晴海1丁目8-11	1,871	0.71
日本トラスティ・サービス信託銀行株式 会社(信託口5)	東京都中央区晴海1丁目8-11	1,869	0.71
計	—	136,230	52.33

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,317,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 257,692,000	257,692	—
単元未満株式	普通株式 1,315,529	—	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	260,324,529	—	—
総株主の議決権	—	257,692	—

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権に係る議決権の数1個が含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式80株を含めて記載しております。

② 【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
千代田化工建設株式会社	横浜市西区みなとみらい 四丁目6番2号	1,317,000	—	1,317,000	0.51
計	—	1,317,000	—	1,317,000	0.51

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	37,868	31,378
受取手形・完成工事未収入金	73,005	62,447
有価証券	107,499	79,499
未成工事支出金	33,826	40,188
ジョイントベンチャー持分資産	※1 127,466	※1 171,743
その他	29,433	30,894
貸倒引当金	△3	△7
流動資産合計	409,096	416,144
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物（純額）	6,862	7,355
土地	5,265	5,265
その他（純額）	2,829	2,389
有形固定資産合計	14,958	15,011
無形固定資産		
のれん	12,395	11,560
その他	7,113	7,605
無形固定資産合計	19,509	19,165
投資その他の資産		
投資有価証券	28,315	30,600
その他	3,477	3,688
貸倒引当金	△68	△45
投資その他の資産合計	31,724	34,243
固定資産合計	66,192	68,419
資産合計	475,288	484,564

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金	145,392	126,957
短期借入金	1,283	1,204
1年内返済予定の長期借入金	4	4
未払法人税等	5,513	1,245
未成工事受入金	80,182	109,494
完成工事補償引当金	507	524
工事損失引当金	4,002	2,699
賞与引当金	4,261	3,263
その他	20,531	21,450
流動負債合計	261,679	266,844
固定負債		
長期借入金	10,018	10,016
引当金	365	365
退職給付に係る負債	2,080	2,756
その他	3,113	3,808
固定負債合計	15,578	16,946
負債合計	277,257	283,791
純資産の部		
株主資本		
資本金	43,396	43,396
資本剰余金	37,112	37,112
利益剰余金	109,525	110,697
自己株式	△1,390	△1,398
株主資本合計	188,644	189,808
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,920	6,950
繰延ヘッジ損益	648	242
為替換算調整勘定	2,486	2,127
退職給付に係る調整累計額	△287	△104
その他の包括利益累計額合計	7,767	9,216
少数株主持分	1,619	1,748
純資産合計	198,031	200,773
負債純資産合計	475,288	484,564

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
完成工事高	199,726	207,170
完成工事原価	180,205	185,919
完成工事総利益	19,520	21,250
販売費及び一般管理費	※1 8,427	※1 11,430
営業利益	11,093	9,820
営業外収益		
受取利息	727	613
受取配当金	796	627
持分法による投資利益	17	—
その他	42	85
営業外収益合計	1,583	1,326
営業外費用		
支払利息	102	129
持分法による投資損失	—	127
為替差損	39	657
その他	98	58
営業外費用合計	241	971
経常利益	12,435	10,175
特別損失		
退職給付費用	161	—
特別損失合計	161	—
税金等調整前四半期純利益	12,273	10,175
法人税、住民税及び事業税	2,323	2,131
法人税等調整額	2,300	2,027
法人税等合計	4,624	4,158
少数株主損益調整前四半期純利益	7,649	6,016
少数株主利益	242	120
四半期純利益	7,407	5,896

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	7,649	6,016
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,239	2,030
繰延ヘッジ損益	△1,252	△405
為替換算調整勘定	1,204	△343
退職給付に係る調整額	—	182
持分法適用会社に対する持分相当額	△11	0
その他の包括利益合計	△1,299	1,464
四半期包括利益	6,350	7,481
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,016	7,345
少数株主に係る四半期包括利益	334	136

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	12,273	10,175
減価償却費	1,470	1,679
のれん償却額	146	663
受取利息及び受取配当金	△1,524	△1,241
売上債権の増減額 (△は増加)	23,590	10,241
未成工事支出金の増減額 (△は増加)	△9,330	△6,247
仕入債務の増減額 (△は減少)	△15,485	△18,205
未成工事受入金の増減額 (△は減少)	595	29,289
ジョイントベンチャー持分資産の増減額 (△は増加)	△8,819	△44,314
その他	55	△4,953
小計	2,973	△22,913
利息及び配当金の受取額	1,300	1,995
利息の支払額	△102	△119
法人税等の支払額	△9,039	△5,788
営業活動によるキャッシュ・フロー	△4,868	△26,826
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額 (△は増加)	184	—
有価証券の償還による収入	2,400	—
有形固定資産の取得による支出	△1,209	△1,123
無形固定資産の取得による支出	△1,301	△1,531
投資有価証券の取得による支出	△2	△109
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△8,725	—
貸付けによる支出	—	△683
その他	154	165
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,499	△3,281
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	△71
長期借入金の返済による支出	△100	△2
配当金の支払額	△4,910	△4,136
その他	△27	△67
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,038	△4,277
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,328	△102
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△16,077	△34,488
現金及び現金同等物の期首残高	180,229	145,303
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	110	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 164,262	※1 110,815

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、新たに設立した千代田ビジネスソリューションズ㈱を連結の範囲に含めておりません。

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数とする方法から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第2四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が901百万円増加し、利益剰余金が579百万円減少しております。なお、当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1 請負工事に係るジョイントベンチャーの保有する現金預金等のうち、当社及び連結子会社の持分相当額であります。

(四半期連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
従業員給与手当	2,142百万円	2,723百万円
賞与引当金繰入額	654	678
退職給付費用	78	179

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
現金預金勘定	51,325百万円	31,378百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△61	△63
預入期間が3ヶ月以内の譲渡性預金等 (有価証券勘定)	112,999	79,499
現金及び現金同等物	164,262	110,815

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月25日 定時株主総会	普通株式	4,921	19.00	平成25年3月31日	平成25年6月26日	利益剰余金

II 当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月25日 定時株主総会	普通株式	4,144	16.00	平成26年3月31日	平成26年6月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額 (注)3
	エンジニアリング				
売上高					
外部顧客への売上高	197,614	2,111	199,726	—	199,726
セグメント間の 内部売上高又は振替高	6	3,206	3,212	△3,212	—
計	197,620	5,318	202,938	△3,212	199,726
セグメント利益	10,931	144	11,075	18	11,093

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれないその他事業セグメントであり、人材派遣業及び旅行業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「エンジニアリング」セグメントにおいて、エクソダス・グループ・ホールディングス・リミテッド他8社を、株式の取得等により連結子会社としております。当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間において8,752百万円であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額 (注)3
	エンジニアリング				
売上高					
外部顧客への売上高	204,886	2,283	207,170	—	207,170
セグメント間の 内部売上高又は振替高	15	3,253	3,268	△3,268	—
計	204,901	5,536	210,438	△3,268	207,170
セグメント利益	9,675	143	9,819	1	9,820

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれないその他事業セグメントであり、人材派遣業及び旅行業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	28.60円	22.76円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 (百万円)	7,407	5,896
普通株式に係る四半期純利益金額 (百万円)	7,407	5,896
普通株式の期中平均株式数 (千株)	259,038	259,010

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月12日

千代田化工建設株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石橋 和 男 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉原 一 貴 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている千代田化工建設株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、千代田化工建設株式会社及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。